



万博記念公園でのマラソン大会に遙学園の小学生チームの1区を任された和希くん

私は、五歳の時に遙学園に来ました。父母と離れた淋しさは今でも覚えていきます。しかし、私よりも先に遙に入所していた兄たちがいたことで、不安が和らいだことも覚えています。

遙で過ごした十年間を振り返ると、楽しかったことはかりが浮かびます。

春のさくらバザーに夏のキャンプ、秋には運動会、冬のクリスマス会。行事だけでなく、一緒に過ごした友だちや先生たちのことも覚えています。公園に一緒に遊びに行き、先生も楽しそうにしてくれていた笑顔が印象深く覚えています。叱られたこともあります。が、楽しい思い出ばかりです。

遙での生活も楽しかったのですが、楽しみしていました。

私は家族と一緒に過ごせる時間を求めていました。中学生になると自分で外泊に行くこともできるので、週末になるのを楽しみっていました。

受験生になり、私は家から高校に通

私は、五歳の時に遙学園に来ました。父母と離れた淋しさは今でも覚えていきます。しかし、私よりも先に遙に入所していた兄たちがいたことで、不安が和らいだことも覚えています。

遙で過ごした十年間を振り返ると、楽しかったことはかりが浮かびます。

春のさくらバザーに夏のキャンプ、秋には運動会、冬のクリスマス会。行事だけでなく、一緒に過ごした友だちや先生たちのことも覚えています。公園に一緒に遊びに行き、先生も楽しそうにしてくれていた笑顔が印象深く覚えています。叱られたこともあります。が、楽しい思い出ばかりです。

たくさんの人との出会い

和希

感謝 水上の友

発行 社会福祉法人
大阪水上隣保館
〒618-0001
大阪府三島郡島本町
山崎5丁目3-18
発行人 水本行彦
編集 広報委員会
法人事務局 075-961-0711
FAX 075-961-1144
<http://www.osakasujorinpokan.com/>
印刷所(有)木村桂文社

二〇二四年標語
愛によって互いに仕えなさい
—ガラテヤの信徒への手紙 五章二三節

う進路を選びました。やつと家族と暮らせるという喜びと、これまで一緒に過ごしてきた遙や学校の友だち、先生たちと離れてしまう淋しさの半々を抱えながら決めた進路でした。

遙を退所してからは、長兄はすでに家から自立していたので、父母と次兄と私の四人での生活が始まりました。しかし、父母のケンカが絶えず、私が高校二年の夏に、母が「ちょっと病院に行つてくる」と言ったまま帰つてきませんでした。残された父と次兄と私が介護の仕事に就いてすぐに、今度は父が「仕事を行つてくる」と出て行つたまま帰つてしまませんでした。

私は知らなかつたのですが、父はギャンブルで借金があり、次兄は父に給与を渡していくそうです。何のために働いているのか分からなくなつてしまつた次兄は、父が出て行つたのと同じ頃に会社を辞めて家に引きこもるようになりました。そこからは、長兄の力も借りながら、家賃や生活費などを私が支えていきました。

二〇〇一年生まれの藤井聰太竜王・名人が八冠の偉業を達成しました。全冠達成の先輩羽生九段は、「継続した努力と卓越したセンス・モチベーション・体力そして時の運」との言葉で祝福。私たちを前に向きに励ましてくれる明るい話題に感謝します。

介護を希望して就職したわけではなかったので、働きながらヘルパーの資格を取るために講習を受けていました。当初は入居者の汚物の世話をなどが辛く、仕事にも慣れずかといって家に帰つて

も大変という日々でした。

今は、次兄も社会支援制度を受けながら生活し、私も一人暮らしを始めました。仕事も三年目に入り、人生の先輩である入居者さんたちと関われる仕事が、とても楽しいです。

二〇二三年の一月に、遙であつた成人の集いに出席しました。そこで、退所後の生活の話をしました。辛い気持ちちは決して消えませんが、遙の思い出や自分も大変だったろうに支えてくれた長兄への感謝の気持ちが自然と溢れてきて、みんなに話を聞いてもらいました。(遙学園 二〇一八年卒園)

**クリスマス
おめでとうございます**



後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上に召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。

—フィリピの信徒への手紙
二章二三節一四節

新年は 絶対来ぬよ 幸せが
(小六 男子)

冬の夜 北斗七星 きれいだな
(小五 男子)

お年玉 友達と遊び すぐ消えた
(中三 女子)

どうもんのいの世界に行って、どう
えもんと一緒に歌が歌いたいです。
(小二 男子)

将来の夢は、優しい人になりたいです。
もし、だれかがこけたら「だいじょう
ぶ」と声をかけてあげる人になりたい
です。
(小三 男子)

夢

新年・冬の俳句

翼

五周年感想

みんなの広場

そらたん

おとぎ



カット絵・小四 女子

△船でやねねのQや、みんなでシンゴゲー△して楽しかったよ。景色がきれいだつた。
(小六 男子)

クイズがたのしかつた。「Jはんもおいしかつた。
(小四 女子)

そらたんは世界を回んでくれる。
(小五 男子)

そらたんは定年退職しました。退職金からわざかですが、寄付させていただきました。お便りの「乳児院」のあかちゃんと先生が、うつぶせで楽しそうに絵本を読んでいる写真に、思わず笑顔になりました。「たっぷり、幸せいっぽいのひとコマ」これからもたくさんたくさんありますように。

▼三月に、定年退職しました。退職金からわざかですが、寄付させていただました。お便りの「乳児院」のあかちゃんと先生が、うつぶせで楽ししそうに絵本を読んでいる写真に、思わず笑顔になりました。「たっぷり、幸せいっぽいのひとコマ」これからもたくさんたくさんありますように。

今年四月からは、地域のお寺の本堂を子どもたちの遊び場として開放してもらひ、大学生なども含めた大人十人ぐらいが、持参したおもちゃやお寺に作ったお菓子を食べ、その後は絵本を読んだり、なぞなぞをしたりと私の方が子どもたちに遊んでもらつていて感じで、一緒に楽しんでいます。

翼にぴつたうだと思つ。(小六 男子)

(山口県知国市 清水由佳利)

『おかげり』

高校生になつてから、バイトを始め一年がたちました。

はじめは、施設のお小遣いだけでは、お金が足りないから、バイトをしてお金を欲しきという目的でした。しかし、

バイト先の仲間から「頑張ったね」「お疲れ様」と声を掛けられ嬉しく思い、今では忙しく働くことにもやりがいを感じています。ただお金のために働くのではなく、人間関係を大事にしながら働く社会勉強ができています。

そして、施設の門限を過ぎて、叱られることがあります。帰ってきたら「おかえり」と待ってくれている人がいる大切な場所だなどいふことも感じています。いつも、ありがとうございます。

▼電車から見える赤い屋根の水上隣保館が、こんなに多くの施設を有し、それぞれが立派に運営されていることに敬意を表します。今後ますます地域に根差した施設として発展されることを祈ります。(大阪府高槻市 中村昭代)

翼の子どもたちに关心を寄せている大人が少なからずいることもわかり、一人ではできなくても、力を合わせたら何か形を作つて応援していかれるかもしれません。翼との出会いのおかげで、子どもたちのエネルギーに触れること、関わる人々との出会いが広がるなど、たくさんもの頂いています。(大阪府豊中市 西村寿子)

▼「水上の友」ありがとう!さうおしゃった。「いい人と出会える星を持つている」を読ませていただきました。その一番星はオカンだったのですね。本当に良い出会いがたくさんあり、それはきっとまみさんが優しくて、星のようにキラキラ輝いている素敵な女性だからだと思います。オカンを大切にしてくださいね。世界中の子どもたちに良い出会いがありますように。世界が平和ありますように」。

加藤 曜子さん
(二〇二三年十月三日召天)
法人評議員 児童虐待の専門家としてアドバイス頂きました。
御靈の上に神様からの祝福が豊かにありますように」お祈り致します。

(島根県出雲市 二上富士子)

釜ヶ崎への焼き出し

前回も高校生プロジェクトを取り上げましたが、今回も活動の「報告」をしたいと思います。

今回は、西成区秋之茶屋南公園（通称、三角公園）で定期的に実施されている焼き出しに参加をしてきました。参加する前に、子どもたちには焼き出しが並んでいる人たちは、どういった生活をしているのか、生活保護とはどういった制度なのか、焼き出しを定期的に実施している団体の取り組みや、今回の活動内容などの説明を職員から行いました。

一時間ほどの活動の中、最初は戸惑いも見られた子どもたちでしたが、焼き出しを配る役割を女の子たちが、公園の清掃を男の子たちが担い黙々と取り組んでいました。

女の子たちは最初はぎこちなく配つていましたが、慣れてくると「美味しいですよ」「熱いので気を付けてください」と声をかけながら配っていました。男の子たちは、公園の清掃を黙々とする子や、列に並ぶ人と話をするなどの交流を持つ子どもいました。

終了後、焼き出しの豚キムチ丼も少し食べさせてもらい、ボランティア団体の方々と一緒に集合写真を撮つて解

散となりました。
高校生プロジェクトの様子は、担当者が毎回壁新聞として作成し、事務所玄関に掲示しています。

一人の高校生男子が、その壁新聞を熱心に見ていたので、参加した感想を聞いてみると「正直な、雰囲気がありすぎて、最初はしんどかったわ。でも、こうとうされて、最初はしんどかったわ。

終わりに豚キムチ丼も食べさせてはもうらうたけど、食べたいって気持ちにはなかなかならんかったわ。でも、こういう活動を定期的にしてると、ご飯を待っている人がいるのを見かけるんじゃなくて、手伝って知れたことはいい経験になつたと思った」と話してくれました。

島本町内のグランドの草抜きなどの施設への依頼も入り始めており、地元にも貢献できる高校生プロジェクトチームになるよう目指します。

(副施設長 濱口京子)



五周年のお祝い

今年、翼は開設から五周年を迎えました。そこで、若手職員を中心に、子どもたちと一緒にお祝いする機会と、ご支援者や地域の方々、関係機関にも記念品をお配りしようと、起案・計画を進めていきました。

お祝いするにあたり、職員も経験したことがないようなことを、子どもたちと初体験し、新たな思い出と一緒に作りたいという思いから、屋形船に乗つて食事をし、レクリエーションをすることになりました。

まずは、この五年間の歩みをスライ

ドショーで流すと、自分の幼い頃の姿が流れ、喜ぶ子ども、少し照れくさそうにしながら見ている子どもなど様々な表情を見る事ができました。

続いて、レクリエーションでは、ゲームを通して、子どもたちにフロアを超えて職員を知つてもらうおうと、職員あてゲームを行いました。知らなかつたちは大盛り上がりしました。普段関りの少ない他のフロア職員とも、一緒にご飯を食べたり話したり、交流が生まれ、当日だけでなく、その後も声を掛け合うようになりました。

五周年の記念品は、翼のオリジナル

マスクットの『そらたん』がデザインされたボールペンを作成し支援者や関係機関、地域の方々にお配りしました。『そらたん』には様々な思いが込められており、これから成長するヒヨコをモチーフに、愛情をたくさん受け、大地を大きくジャンプできるようにスニーカーには翼が生え、お腹のピンクのバンドは子どもを包み込む温かさをイメージしています。

キヤラクターの名前は、たくさん集まつた候補の中から選ばました。子どもたちもとても気に入っている『そらたん』です。(今回のみんなの広場のカット絵は翼の小学四年生女子の二人が描いてくれた『そらたん』です)これからも、子どもたちの楽しい気持ちも悲しい気持ちも、受け止めてくれる施設としてがんばっていきます。

(児童指導員 萩野あかね)



児童心理治療施設

ひ ん き

ヨガ教室

中高生の女の子を対象に、大学の心理学の先生を招いて、ゆりの礼拝堂でヨガ教室をひと月に一回実施しています。

以前、『水上の友（一四一号）』で分園型小規模グループケアを紹介させていただいた際に、ひびきの子どもたちの心の傷つきの深さを記述しました。ヨガには、①心が落ち着く②集中力強化③ダイエット効果や体の歪み矯正④不眠改善⑤ホルモンバランスの調整、といった心や身体にとって良い効果が多くあるそうです。傷ついた子どもたちが、恐怖を感じることなく取り組める感覚運動なので、ひびきの子どもたちにはとても効果的です。

子どもたちはヨガを楽しんでおり、身体が柔らかい子も多いので、習得するものがとても早いです。私も参加していますが、凝り固まつた身体には負担が重く、ポーズができず倒れ、体勢をキープできないといった悲惨な状態となってしまいます。そんな私を横目に子どもたちは静かに集中しています。子どもたちも倒れてしまふことがあります。最後に、瞑想をして自分の身体に意識を集中させて終了です。



(副施設長 幸嶋成幸)

普段動かすことのない身体の使い方をするので、田を覚ました後の爽快感が子どもたちにはあるようですが「次はいつ?」「何日にやるん?」と心理学の先生とのヨガ教室の日程調整を催促してきます。

子どもたちがヨガに積極的に取り組んでくれており、自分の部屋でも取り組めるようにと個別のマットも購入しました。軌道に乗れば、ひと月に二回くらいのペースにしたいと思つています。また、女の子だけでなく、筋肉を使つた男の子向けのプログラムもあるので、対象も広げていきたいと考えています。

ヨガ教室を通して、子どもたちの心の安定や集中する力を伸ばし、私も無事に体勢をキープできるように、健康的に身体を動かしながら、一緒に取り組んでいきたいと思います。

大規模改装工事完了のご報告

国の施策として、乳児院の子どもたちにおいても、できるだけ家庭的な養育環境が望まれています。その環境整備として、二〇二二年の十月に小規模ユニットにすべく、大規模改装工事が始まりました。

それに伴い、子どもたちの生活スペースは遙学園の六階へ一時的に引越しとなりました。生活や事務所、調理室、それのスペースが点在するかたちになり、職員もすれ違ってしまう体制になりました。子どもたちも間借り生活の間は、なり、子どもたちも間借り生活の間は、集団での生活となっていました。

こうした様々な苦労の半年間を乗り越え、二〇二三年五月三十一日に大規模改装が完成。六月二十九日に新しくなった乳児院に皆で戻ってきました。

外観からの大きな変化は見られませんが、玄関から中に入ると廊下に面して独立したユニットの入り口が四つ並んでいます。それぞれにトイレス、お風呂、キッチンが整備されていて、職員の思いの込もった家具が配置されています。



(乳児院院長 丸谷邦江)

呂場は大きな浴槽があり、入浴時は職員は服のままの入浴介助が中心となっていました。しかし新しい家庭サイズのお風呂場になつたことで、子どもたちの方から「一緒に入ろう」と声をかけてくれ、裸の付き合いが増えてきています。

もう一つは、集団での生活ではなかなか落ち着きが見られなかつた子どもが、ユニットに移り、少人数での生活の中で、穏やかに過ごすことができる

乳 児 院

大規模改装工事完了のご報告

このような変化への気づきや子どもたちからの発信を受け止め、安心できる大人との関係性が深めていくよう、職員の養育の力も引き続き伸ばしていくべきだと思っています。

皆さんに、大規模改装が無事に完成し、小規模ユニットとしてスタートしていることをご報告でき嬉しく思います。

特別養護老人ホーム
弥栄の郷（やえのさと）



三年ぶりの敬老祝賀会は、現在施設最高齢の入居者（この方のお母様は弥栄の郷創立最初の入居者）が、くす玉を割つてくださり華やかに開会。ご家族と共に、コロナの事をちよつとも忘れて楽しい時間を過ごして頂きました。遙学園の子どもたちによるフルスパンの演奏や、杉本施設長と職員によるギターの弾き語り、二人羽織やカラオケ大会と盛りだくさんの演目で賑やかな祝賀会となりました。今回の機に少しづつ前に進み、活気を取り戻していきたいと思います。

（介護職員 吉原大樹）

今春から囲碁教室が開かれています。毎週金曜日になると、子どもたちを中心に入勢が食堂に集まり、和やかに対局を楽しんでいます。講師は黒川前理事長です。「囲碁教育研究会」のお一人として長年障がいのある子どもたちを指導し、「囲碁は人間教育」と言われています。

はじめ「難しい・・・」と消極的だったAくんは、教わる中で徐々に理解が深まり上達していきました。障がいの特性上、苦手な「相手をよく見る」ことと「先を読む」ことも少しづつ学んでいます。挨拶や片付けができるようになった子もいます。みんなの今後の成長が楽しみです。

（支援員 永田優子）

障害者自立支援拠点
レモンテラス



囲碁教室やっています

大阪保育福祉専門学校



『キャンパス・オリーブ』と一緒に！

日ごろお世話になっている社会福祉法人わかくさ福祉会と、北摂の支援学校の先生やPTAの皆さんから「障がいのある若者の学びの場を作りたい」との申し出がありました。そこで、二〇二二年四月からNPO法人オリーブが運営する自立訓練の事業所『キャンパス・オリーブ』が校内で開所されることとなりました。授業は主に記念館で行われ、様々な授業は主に記念館で行われ、様々な障がいのある学生が通っています。HOSENの学生と一緒にクリスマスリースを作り、セキュリティ強化として、玄関にカードタッチの機械を設置し、保護者の方々にICOカードをお持ちいたしました。その他にも園と保護者の連絡手段の一つとして、アプリを導入し、園児の欠席確認・預かり保育の利用の管理もするようになりました。引き続き、保護者が安心できる園として、職員一丸となって何よりも子どもの命を守っていくことを心がけていきます。

（副校長 植田彌生）

山崎幼稚園



安全に、安心して預けられる園に

昨年度『バス送迎安全管理マニュアル』を見直し、園バスがより安全に運行できるように努めるとともに、今年七月末からは『車内点検サポートシステム』を導入。園児の置き去り防止を徹底しています。また、セキュリティ強化として、玄関にカードタッチの機械を設置し、保護者の方々にICOカードをお持ちいたしました。その他にも園と保護者の連絡手段の一つとして、アプリを導入し、園児の欠席確認・預かり保育の利用の管理もするようになりました。引き続き、保護者が安心できる園として、職員一丸となって何よりも子どもの命を守っていくことを心がけていきます。

（幼稚園教諭 磨理沙）

常に面白いことを思いつき、周りを笑顔にする年長のAくんとBくん。ある日「明日“ジャイアンリサイタル”をするので見に来てください」と、クラスの皆さん手作りチケットが配られました。翌日、チケットを貰った子どもたちが廊下で待つている、「お待たせしました。チケット拝見します」とオーブン。手作りの舞台の前に三角座りをして目を輝かせているお客様。みんなの前に立った二人は手作りマイクを握り、歌を歌つたり一発ギャグをしたりしていますが、瞳の奥は真剣です。「めっちゃ面白い」「かっこいい」と盛況で幕を閉じ、クラスを一段と明るくしてくれました。

(保育士 鈴木祐夏)

地震や台風などの自然災害が増える今、藤の里保育園でも非常食の準備をしています。そこで、五歳児を対象に、非常食について考える食育活動をしました。非常食を選ぶポイントは①賞味期限が長い②常温保存ができる③水だけで調理できる④温めずに食べられる、といった点です。実際にどんな非常食があるのかを見てもらうと「チョコもパン。手作りの舞台の前に三角座りをして目を輝かせているお客様。みんなの前に立った二人は手作りマイクを握り、歌を歌つたり一発ギャグをしたりしている」と、瞳の奥は真剣です。「めっちゃ面白い」「かっこいい」と盛況で幕を閉じ、クラスを一段と明るくな学びの場が持てました。

(栄養士 松下美佳)

枚方市でおひさまが始動してから五年が経ち、里親さんや子どもたちへの支援を中心に、里親委託の推進に向けて活動として講演会や個別相談、研修事業などを幅広く担うようになっていました。支援する里親家庭も徐々に多くなっていますが、社会的養護の施設がない枚方市周辺地域では、里親制度自体を地域全体に広報していくことの大切さを実感しています。そこで、枚方市周辺で運行している京阪バスや近鉄バスの数台に、ラッピング広告を出しています。何度も目にすることで、里親を身近な制度として感じてもらえる機会になればと思っています。

(里親支援専門相談員 木内さくら)

施設を飛び出し、近隣の公園へおでかけすることがあります。公園ではかけっこやボール遊び、ぐんぐり拾いなどの外遊びをして楽しみます。子どもたちが、元気いっぱいに遊び一方で、子育て中の保護者同士が、自然と集まって出会うきっかけにもなっています。『子育てひろばさぶり』に集まつて遊ぶ時は違って、公園では広々と空間を使って伸び伸びと過ごしています。そういうふた様子を保護者も子育て仲間と一緒に見守り、話せる場をこれからも作っていく、みなさんが参加しやすいように、おたよりやりーフレットでも発信し、広げていきたいと思います。

(副センター長 本城理恵)

“ジャイアンリサイタル”



お菓子も非常食になるよ



ラッピングバスで広報活動



公園へのおでかけ



山崎保育園

認定こども園
藤の里保育園

里親支援機関
おひさま

ファミリーポートサプリ村野

社会福祉法人 大阪水上隣保館 [児童福祉 92年]

大阪保育福祉専門学校

〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-10 TEL.075-962-1115 FAX.075-962-9001



9 山崎幼稚園



1 2 専門学校・本館・オリーブ館



3 専門学校・中村記念館



4 児童養護施設 遙学園



児童養護施設 翼 (豊中市)



5 児童心理治療施設 ひびき



10 山崎保育園



つどいの広場 (子育て支援) ばんだいのいえ (島本町)



障害者自立支援拠点 レモンテラス (島本町)



11 桜屋



認定こども園藤の里保育園 (高槻市)



アミリーポートたかつさ (高槻市)



大阪水上隣保館乳児院



7 地域交流センター・ゆりの礼拝堂



8 特別養護老人ホーム 弥栄の郷



大阪水上隣保館附属診療所 さくらクリニック (島本町)



子ども家庭支援センター・ファミリーポートひらかた (枚方市)



ファミリーポートサブリ村野 (枚方市)



里親支援機関おひさま (枚方市)

豊かな自然環境の中でキリスト教の愛の精神に基づいた人格形成をします

山 崎 幼 稚 園

〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-1 TEL.075-961-3341 FAX.075-961-7296
ホームページ www.yamazaki-k.ed.jp